



平成30年2月15日

## 住宅火災による死者が2倍に急増しています!!

本年に入り、住宅火災による死者が22人発生し、昨年と同時期と比較すると12人増加と2倍を超え急増しています。

死者が発生した火災を出火原因別に見ると、「たばこ」、「ストーブ」が原因とみられる火災が多く、東京消防庁では注意を呼びかけています！

※同時期とは1月1日から2月14日、死者は自損を除く

- 本年の火災による死者22人のうち高齢者の占める割合は約8割！
- 出火原因とみられる「たばこ」では、寝たばこや不始末、「ストーブ」では周囲に置いた可燃物に接触することにより火災が発生！
- 死者が発生した住宅火災における住宅用火災警報器等の設置状況を見ると8割以上が未設置！

※上記の火災発生状況、事例、注意点は、別紙を参照してください。

※実験映像（たばこ火災、電気ストーブ火災）を希望する社は、広報課報道係までご連絡ください。

問合せ先

（東京消防庁（代） 電話 3212-2111  
防災安全課防災安全係 内線 4195  
広報課報道係 内線 2345～2350）

## 1 住宅火災による死者発生状況（別添え図1、図5参照）

本年の住宅火災による死者22人のうち高齢者の占める割合は約8割（77.3%）と高く、世帯別に見ると、高齢者一人暮らし世帯、高齢者のみの世帯で多く発生しています。

高齢者は、迅速な行動が困難である方も多いことから、火災発生時に被害が拡大する可能性が高くなっています。

## 2 出火原因別状況（別添え図2、図3、図4参照）

死者が発生した住宅火災を出火原因別に見ると「たばこ」、「ストーブ」による火災が多く、特に「ストーブ」では全てが「電気ストーブ」によるものです。

「たばこ」では、寝たばこやたばこの不始末、「ストーブ」では周囲に置いた可燃物が接触したことにより火災が発生しています。

### 事例1

たばこが原因により出火し死者が発生した火災

この火災は、耐火造の共同住宅1階部分から出火したものです。

概要は、60代の男性が居室内でたばこを喫煙し、完全に消火されていないまま、居室内に直接捨てていたため、時間の経過とともに収容物に着火し、出火したものです。

### 事例2

電気ストーブが原因により出火し死者が発生した火災

この火災は、防火造の住宅2階部分から出火したものです。

概要は、90代の居住者が電気ストーブの上部で洗濯物を干し、周囲に布団等の可燃物を置いていたため、何らかの可燃物に着火し、出火したものです。

## 3 住宅用火災警報器の設置促進と適正な維持管理について（別添え図6参照）

死者が発生した住宅火災における住宅用火災警報器等の設置状況を見ると、8割以上が未設置住宅で発生しています。

住宅用火災警報器は、早い発見、早い通報につながるなど、住宅火災の被害低減に有効であることから、火災予防条例どおりに全ての居室、台所、階段に設置しましょう。

また、設置後は、定期的な作動確認など、適正な維持管理をお願いします。

## 4 出火防止のポイント

### (1) たばこ

ア 寝たばこは絶対にしない

イ 吸殻を灰皿にためない

ウ 吸殻を捨てるときは、水で完全に消してから捨てる

### (2) ストーブ

ア 周囲に燃えやすいものを置かない

イ 外出時、就寝時は必ず消す

ウ 洗濯物を乾かすために使用しない

東京都内では、例年と比較して平均気温が下がっているなど、暖房器具を使用する機会が増えていることや、空気が乾燥し火災が発生しやすくなっていることなどから、引き続き注意が必要です。

東京消防庁では、火災予防について注意を呼び掛けていますが、複数の死者が発生している区を管轄する第4消防方面（杉並区、新宿区など）及び第10消防方面（板橋区、練馬区）については、特に、重点的な注意喚起を図っていきます。（別添え図7参照）

## 平成30年中の住宅火災による死者発生状況

【各数値は平成30年2月14日現在速報値】

※同時期は各年の1月1日から2月14日まで、死者は自損を除く。

### 1 過去5年間同時期の住宅火災による死者数

昨年と比較し死者の発生数が2倍を超え急増し、高齢者の占める割合も約8割と高くなっている。

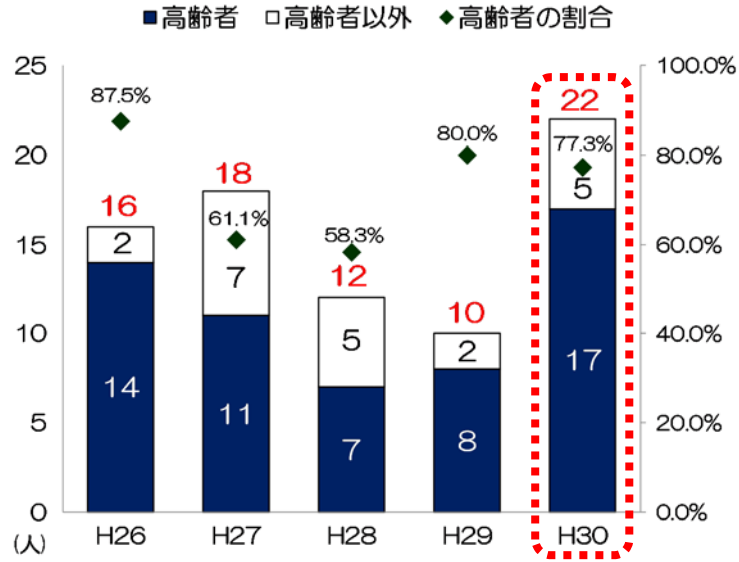


図1 過去5年間同時期の住宅火災による死者数  
(各年1月1日から2月14日まで)

### 2 過去5年間同時期の出火原因別状況

例年と比較し、「たばこ」、「ストーブ」が発火源と推定される火災が多い。

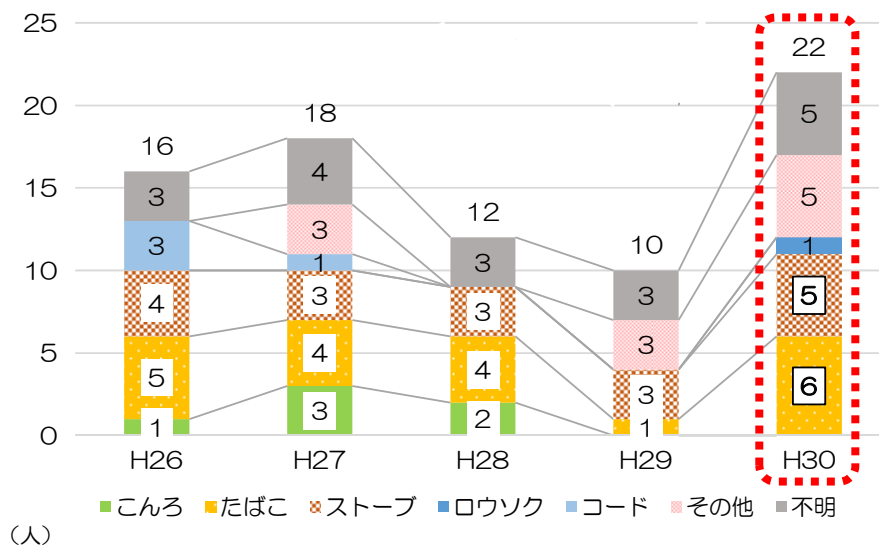


図2 過去5年間同時期の出火原因別状況  
(各年1月1日から2月14日まで)

3 「たばこ」、「ストーブ」による住宅火災の死者発生状況

「たばこ」、「ストーブ」の各出火原因の特徴についてみると、「たばこ」では「火源が落下する」火災で多く発生し、「ストーブ」では全て「電気ストーブ」を発火源とした火災で発生している。

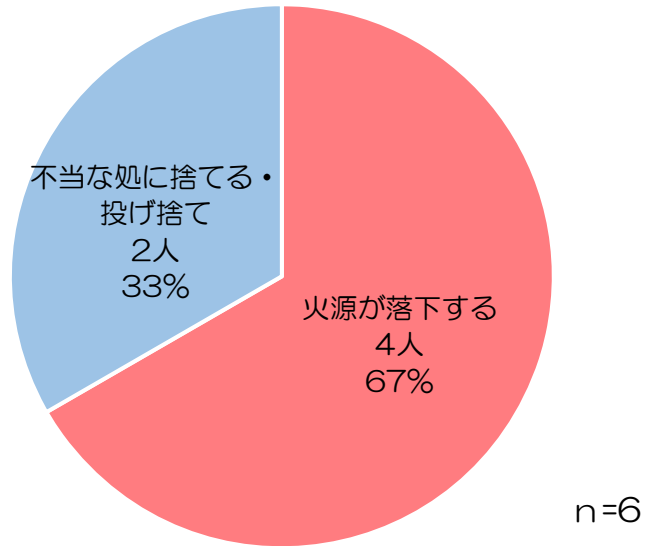


図3 たばこ経過別死者数  
(平成30年中)

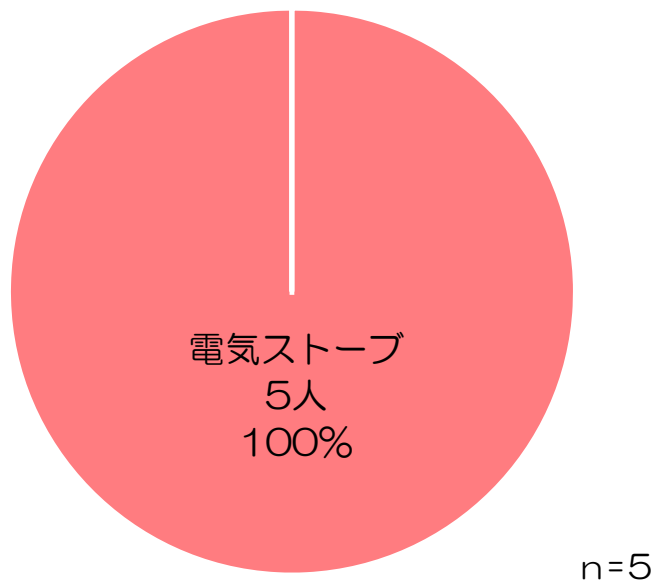


図4 ストーブ発火源別死者数  
(平成30年中)

別添え

#### 4 高齢者の死者の発生状況

高齢者の死者の発生状況を見ると、「一人暮らしで出火時本人のみ」、「高齢者世帯で出火時一人又は高齢者のみ」の世帯が多い。

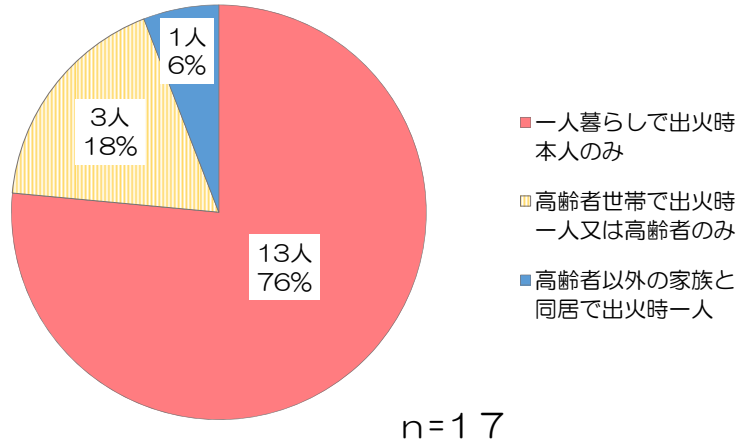


図5 高齢者の死者の発生状況  
(平成30年中)

#### 5 住宅用火災警報器等の設置状況

住宅用火災警報器等の設置状況を見ると、「住警器等の設置なし」が多い。

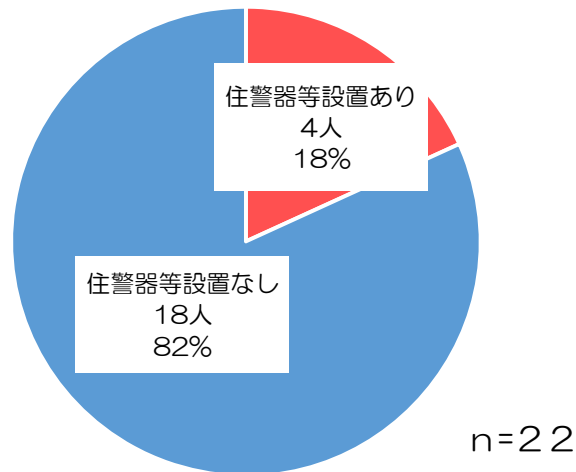


図6 住宅用火災警報器等の設置状況  
※住宅用火災警報器等には自動火災報知設備を含む  
(平成30年中)

## 6 区市町村別住宅火災死者発生状況

杉並区、新宿区、板橋区、練馬区で複数の死者が発生している。

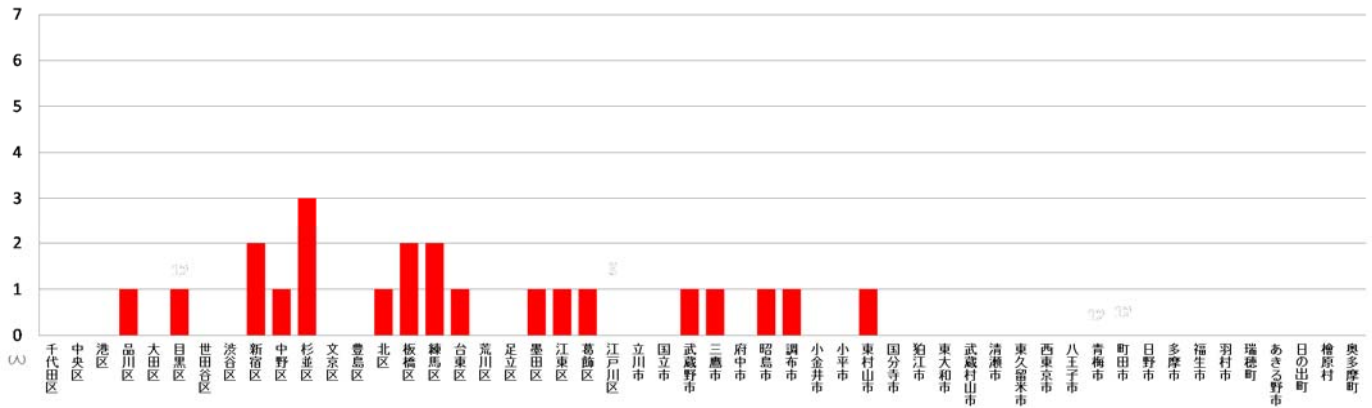


図7 区市町村別住宅火災死者発生状況  
(平成30年中)